

## 会 議 録

会 議 名	令和7年度第2回東松山市地域福祉計画策定委員会・東松山市地域福祉活動計画策定委員会 合同会議					
開 催 日 時	令和7年11月27日（木）	開 会	午前9時55分			
		閉 会	午前11時45分			
開 催 場 所	東松山市総合会館 4階多目的ホールB					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1)第三次東松山市地域福祉計画の進捗・評価について (2)第三次東松山市地域福祉活動計画の進捗・評価について 4 その他 5 閉会					
公開・非公開の別	公開	傍 聴 者 数	1 人			
非公開の理由 (非公開の場合)						
参加者出欠状況	委員長	稲葉一洋	出席	委員	福田千賀雄	出席
	委員	若林 茂	出席	委員	須藤博一	出席
	委員	松永政子	欠席	委員	金杉明	出席
	委員	浅岡倫子	出席	委員	高谷あすか	出席
	委員	奥村一彦	出席	委員	柳沢知孝	出席
	健康福祉部 次長 山口勉			社会福祉課 課長 山口剛史		
	社会福祉課副課長 忽滑谷陽一			社会福祉課主査 福島朋和		
	社会福祉課主任 岡安睦実					
	東松山市社会福祉協議会 次長 澤井太二郎			東松山市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 内藤高子		

	東松山市社会福祉協議会 地域福祉課係長 神田満紀子	東松山市社会福祉協議会 地域福祉課グループリーダー沼田紗織
次 第	顛 末	
1 開会	(事務局開会宣言)	
2 あいさつ		
山口課長	会議の開催にあたり、稲葉委員長より挨拶をいただきたいと思います。	
	— 稲葉委員長挨拶 —	
山口課長	<p>ありがとうございました。それでは、委員の出席状況等について、ご報告申し上げます。本日は10名のうち、出席委員数は9名となっております。従いまして、東松山市地域福祉計画策定委員会条例及び地域福祉活動計画策定委員会設置規程第6条第2項の規定による定足数に達しておりますので、本会議は成立いたしましたことをご報告申し上げます。</p> <p>また、本会議の会議録の作成に当たり、出席委員2名に署名をお願いしたいと存じます。名簿順ということで、本日の会議録につきましては柳沢委員と福田委員をお願いいたしたいと存じますが、いかがでしょうか。それでは、柳沢委員と福田委員は、後日、会議録に御署名をお願いいたします。</p> <p>議事に入る前に、配布資料の確認をさせていただきます。事務局より確認をお願いします。</p> <p>— 事務局（忽滑谷副課長）説明 —</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。議事につきましては、策定委員会条例により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、稲葉委員長をお願いいたします。</p> <p>なお、議事録作成の都合がございますので、ご発言の際は氏名を</p>	

	<p>名乗っていただいてからのご発言をお願いいたします。</p> <p>稲葉委員長よろしくをお願いいたします。</p>
稲葉委員長	<p>しばらくの間、議長を務めさせていただきます。</p> <p>議事に入る前に確認事項がございます。</p> <p>東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、公開・非公開の決定を会に諮って決めることとなっております。公開の場合、傍聴希望者がいらっしゃれば、傍聴いただくことになります。</p> <p>事務局にお聞きします。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。</p>
忽滑谷副課長	<p>傍聴の申込みは1名です。</p>
稲葉委員長	<p>傍聴を許可することに御異議ありませんか。</p> <p>— 委員の同意 —</p>
稲葉委員長	<p>それでは、傍聴の許可をします。事務局は、申込みをいただいた方を入室させてください。</p>
3 議題	
稲葉委員長	<p>それでは、本日の会議を公開とし、議事に移ります。</p> <p>まず初めに（１）第三次東松山市地域福祉計画の進捗・評価について、その後（２）第三次東松山市地域福祉活動計画の進捗・評価について、議事が2件ありますので、順次進めていきたいと思えます。</p> <p>議事（１）第三次東松山市地域福祉計画の進捗・評価について事務局より説明をお願いします。</p>
福島主査	<p>— 議事（１）の説明 —</p>
稲葉委員長	<p>説明は終わりました。</p> <p>第三次計画にあたっては1点目は、第二次計画の点検表を整理し課題を抽出したこと、2点目は、第三次計画の点検評価の方法を説明の内容で進めたいということ、3点目として、7頁のまとめにあ</p>

	<p>る内容を議論いただきたいとのことです。何かご意見等ございますでしょうか。</p>
浅岡委員	<p>第三次計画の評価方法としてロジックモデルはよいのではないかと考えます。</p> <p>しかし気になったこととして、A3の評価シート案のアウトプット欄にある「つながりサポーター」について、昨年2月の会議にではサポーターが不足しているとの説明がありました。つながりサポーターがどのくらい不足しているか気になりますので、参加人数だけではなく目標人数を追加していただくと、より見やすくなると思います。</p>
福島主査	<p>つながりサポーター養成者数については、昨年度から開始した事業になります。ご指摘のとおり目標値や目指す人数の記載も含めてアウトプットの欄に記載した方が、目標を達成したかどうかが読れるため、参考にいたします。</p>
稲葉委員長	<p>シート案は例示として示していますが、定量的評価だけではなく定性的評価を合わせていくことで、数字として重要なものもあるので、十分考えて記載していく必要があるとのご指摘だったと思います。</p>
福田委員	<p>第二次計画では、定量的評価が中心であり、また、資料の枚数も多かったですが、第三次計画では定量的評価に定性的評価を加えるとともに、ある程度範囲を絞り検討していくという点も、今後進める上でよいと思います。</p> <p>今後のまとめについては、記載の内容でよいかと思います。細かい点になりますが、ロジックモデルで使用する文言については、地域の方も見る機会があるため、分かりやすい表現をカッコ書きで付け加える等してもよいのではないかと思います。</p>
稲葉委員長	<p>ロジックモデルを示す用語は、吟味してはどうかとの意見でした。事務局で示した案は抽象的なもので理解するために作成しており、今後、文言やどのような形が望ましいのか関係課と調整しながら検</p>

	<p>討していく必要があります。</p>
高谷委員	<p>定量的評価と定性的評価については、数字が表すほかに意味があると思いますので、関係課と顔を合わせながら議論していくのがよいと思います。</p> <p>評価の回数に関しても、第二次計画のように全体を一度に行うと発言が飛んでしまっていたため、大項目ごとに議論することができると意見が出しやすいし、聞いている委員も理解しやすいと思います。</p>
稲葉委員長	<p>それでは、7頁のまとめについて、一つずつ確認していきます。</p> <p>①評価シートはロジックモデルを使用し、定量的評価と定性的評価の両方を行うのはどうか、これについてはいかがでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p> <p>②ロジックモデルは、関係課の話し合いにより作成する方法としてはどうか、これについてはいかがでしょうか。</p>
金杉委員	<p>各課との話し合いに変更したい真意は何でしょうか。</p>
福島主査	<p>第三次計画の中の「計画の推進体制」の項目で、進捗状況の確認は対面による意見交換を基本とすると記載してあります。それに基づいて本日提案させていただいたという経緯があります。</p> <p>なぜ、計画にそのように記載したのかという点は、関係課と文書のやり取りだけでは、計画の中身を見ていただけないことがあります。計画の趣旨や目的を対面で確認しながら進捗管理をしていくことが重要であると考えたためです。</p>
須藤委員	<p>関係課の話を聞くだけで、集まって議論はしないのでしょうか。</p>
福島主査	<p>関係課で集まって会議形式で意見を出し合うことを想定しています。</p>

稲葉委員長	②については事務局案のとおりでよろしいでしょうか。
	—異議なし—
稲葉委員長	③作成するロジックモデルの単位は、基本目標ごとにしてはどうか、これについてはいかがでしょうか。
奥村委員	<p>地域福祉計画の基本目標には、複数の施策の方向性があり、その施策の方向性ごとに目指す姿が示されています。この目指す姿がロジックモデルのインパクトゴールかと考えていたのですが、例示されているものは一つのロジックモデルに複数のゴールが合わさっています。</p> <p>基本目標ごとに評価していくのか、計画のように目指す姿ごとに評価していくのかどちらでしょうか。</p>
福島主査	<p>ご指摘のとおり、A 3でお示した資料の2頁目の右側のインパクトには、第三次計画の中の施策の体系で示した方向性や目指す姿とは一致していない状況です。この点については、作成をする際に具体的に検討していきたいと考えています。</p> <p>抽象化することで拾うことができるのではないかということと、まとめることができないのであれば、1つの基本目標で1枚のシートとご説明しましたが、1枚だけではなく2枚となる場合もあります。</p>
稲葉委員長	<p>大きな目標では基本目標で評価をしていく、きちんと収まりきらない場合には、実務の中で検討・整理をしていきたいということです。</p> <p>最後に、④策定委員会で議論するのは、1回の会議につき2つの基本目標に絞ってはどうか、についてはいかがでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p>
稲葉委員長	6頁目のスケジュールの部分ですが、令和11年度は計画の完成年度となりますが、この年度の評価は策定委員会とは別に会議を開

	<p>催するのでしょうか。</p>
福島主査	<p>令和１１年度については、次期の計画策定を進めることとなりますので、会議の回数は２回ではなく増えることとなります。年に２回の評価を維持しながら、加えて時期の計画の審議も進めていくこととなります。</p>
稲葉委員長	<p>その他、ご意見はよろしいでしょうか。なければ議事（１）を終了させていただきます。</p> <p>議事（２）第三次東松山市地域福祉活動計画の進捗・評価について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
内藤課長	<p>— 議事（２）の説明 —</p>
稲葉委員長	<p>説明は終わりました。第三次東松山市地域福祉活動計画の進捗評価について説明していただきました。重点取組を計画では３点挙げていました。その重点取組についての評価を行っていますが、今後もそのように進めていくことがよいかどうか意見を求められています。</p> <p>事務局に確認ですが、重点取組の下に３点記載してあります。この３点に記載されていることは重点取り組みを進めるための方向、方針にあたるのでしょうか。</p>
内藤課長	<p>方向、方針にあたる部分になります。</p>
稲葉委員長	<p>重点取組１と２の２つについては、住民が中心となる内容です。社協の役割としては地域や住民に働きかけを行う、支援をしていくこととなります。取組３では権利擁護をテーマとして、地域住民というよりも社協が中心の内容、社協が関係機関と連携を取りながら取り組みを行っていくという違いがあります。</p> <p>ご意見、ご質問がありますでしょうか。</p>
須藤委員	<p>１・２ページに民生委員・児童委員の協力を得て品物配布を行ったという旨の記載がみられました。何歳以上の方に配布しているのでしょうか。分かる範囲で教えていただければと思います。</p>

内藤課長	支部により違いはありますが、概ね 70 歳以上、高齢者世帯調査に合わせて民生委員・児童委員の協力のもと、実施している地区が多い状況です。
須藤委員	高齢者世帯調査自体については何歳以上を対象として行っているのでしょうか。
山口次長	高齢者の定義については 65 歳以上とされています。高齢者世帯調査は以前、65 歳以上を対象としていましたが、人数が増えていることや元気な方も増えていることから、目的も鑑みて 70 歳以上へ年齢を引き上げました。
福田委員	地域福祉計画と同様に定量的評価、定性的評価を行うのでしょうか。また、成年後見センターのアウトプットに記載のある、「相談・調整件数」「実相談件数」「受任調整件数」の違いを教えてください。
内藤課長	<p>評価方法については、アウトカム、アウトプットに基づいた評価を行っていきたいと思っています。地域福祉活動計画と連動している社協の第 3 期の発展・強化計画でもアウトカム、アウトプットを用いた評価を行っていく予定です。今後、発展・強化計画とも連動させ、そのような評価記載を進めていきたいと考えています。</p> <p>成年後見センターのアウトプット、「相談・調整件数」は相談すべての延べ件数となっています。1 人あたり複数回の相談や関係機関への調整も含まれています。「実相談件数」は相談の対象となる方の実人数となりますが、匿名での相談は含まれておりません。「受任調整件数」は成年後見制度を利用される方で、後見人が決まっていない方について、どういった方に受任いただくことがよいのか、受任して下さる方におつなぎして家庭裁判所に申し立ての調整をした件数になります。</p>
稲葉委員長	<p>今回は計画初年度で、課題や取り組みの定性的なものは記載しにくい部分もあったのではないのでしょうか。</p> <p>質問ですが、1 ページに「地区プランの推進が図れるよう社協支部の事業計画に地区別プランを盛り込み」とありますが、7 支部すべて</p>



	<p>の事業計画に入れているということでしょうか。</p>
内藤課長	<p>7支部すべての事業計画に地区別プランに関連した内容が盛り込まれ、支部を中心とした地区別プランを進めています。</p>
稲葉委員長	<p>そのようなことであれば順調に動き出していると思います。</p> <p>社協の普通会費は集めた全額を社協支部に助成しています。他の市町村では会費の5割を助成としているところもありますが、東松山の場合は全額地域に返しているということでもあります。財政面での支援を行ったとみてとれます。</p> <p>重点取組の中では、生活支援コーディネーターが出てくることが多いです。地域福祉活動計画を進めるにあたって密接に関わってくることが分かります。</p> <p>3ページにある重点取組1の介護予防・生活支援体制整備事業についてのアウトプットの記載によると、大岡地区、野本地区、唐子地区の3つの地区は支部と連携した地域生活課題の検討、第2層協議体の話し合いの場としては松山地区、高坂地区、高坂丘陵地区、平野地区の4つの地区となっており、二手に分かれています。理由はありますか。</p>
神田係長	<p>大岡地区、野本地区、唐子地区においては、今まで第2層協議体として話し合いが行われていた場が区切りとなり、新たに支部と一緒に考えていけたらということで、社協支部の役員会の際に市高齢介護課や地域包括支援センターに入っただき、地域課題等の話し合いを行っています。松山地区、高坂地区、高坂丘陵地区、平野地区においては、これまで第2層協議体で活動されていた方が引き続き活動、話し合いを行っています。このような理由から違いが出ています。</p>
若林委員	<p>地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターの違いはどのようなことなのでしょう。</p>
神田係長	<p>地域福祉コーディネーターは7地区に配置され、松山地区は3名、その他の地区は2名体制で、市内には15人おられます。担当地域の方からの相談を受け、適切な所へつないだり、支え合いサポート事業の</p>

	<p>マッチング等を行っています。社協の職員が担っており、松山地区は市民福祉センター、その他の地区は各市民活動センターに専任コーディネーター（非常勤職員）が席を置かせていただき勤務しています。生活支援コーディネーターは社協の職員２名が行っており、高齢者になっても地域で暮らし続けられるような取り組みを行い、市内全域を対象としています。</p>
浅岡委員	<p>高坂地区の地区別プランの「現状と課題」には「高坂地区は新興住宅地が多く、子どもが増加傾向にあります。地域には小中学生の居場所として自由に過ごせる施設がなく、放課後の居場所づくりが急務となっています」とあり、自分もこの課題については同じように思っています。この課題について何か取り組んでいるのか教えてください。</p>
内藤課長	<p>地区プランの具体的な取組については高坂支部で進めているため、現時点では把握できておりません。確認して次回の会議で回答させていただきます。</p>
稲葉委員長	<p>評価方法について、社協は重点取組を基にした評価方法をとっていますが、重点項目に挙げられていない取り組みも多く行っていると思います。重点項目だけでは足りないと考えられるため、総合的な評価も検討してみたいと思います。</p>
内藤課長	<p>ご意見いただきありがとうございます。そのような評価方法を検討していきたいと思います。</p>
稲葉委員長	<p>他に何かありますでしょうか。なければ議事終了ということになります。</p> <p>ご協力ありがとうございました。</p>
4 その他	
山口課長	<p>続きまして、4 その他について、事務局からご説明します。</p>
忽滑谷副課長	<p>ー 今後のスケジュールについて説明 ー</p>

